

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800114		
法人名	社会福祉法人啓和会		
事業所名	『至福の郷』グループホーム東町		
所在地	福島県喜多方市字石田4041-1		
自己評価作成日	令和7年4月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和7年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしい生活が出来るように、自宅での生活の様子や大事にしてきたことなどを事前に把握し、職員全員で話し合い、楽しく生活が送れるよう意識して取り組んでいます。近隣の保育園との交流、また地域との交流を感染対策を講じた上でを行い、天気の良い日は庭先で日光浴をしながら歌を歌うなど、利用者様に楽しんで頂いています。また住み慣れた地域で生活できるよう、日々利用者様に寄り添い、笑顔や笑い声が堪えない事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義と役割を理解し、地域の活動に参加し、ボランティア団体を受け入れたり、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域と交流する機会を増やしている。利用者・家族や職員の意見を積極的に聞き取り、問題を一緒に解決することで、ケアの質の向上や事業所の円滑な運営に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年4月に職員全体で話し合い、理念の見直しを行っている。居間に掲示し、毎朝職員が目にするように、意識した取り組みができるよう努めている。又、月に一度の職員会議で理念の共有に努めている。	事業所の見やすい場所に掲示し、毎月の職員会議で共有している理念に基づいたケアに対し、利用者からありがたいという言葉を受け取る時など、理念が実践できていると感じている。立場や経験に関わらず、理念に基づいた目標を作り意識し合いながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	感染対策を行いながら苑外で太鼓台の見学をしたり、保育園児による白虎隊の演舞を見学したり、近所を散歩し地域の方と交流を図っている。	町内会に加入し 回覧板を回してもらい、夏祭りなどに参加している。そば打ちや歌のサークルのボランティアに訪問してもらい楽しい時間を過ごしている。中学校の職場体験を受け入れたり、認知症カフェを開催し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を町内に配布し、苑での利用者様の様子や、認知症の方との関わり方など、知って頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	施設での開催にし、雰囲気を感じて頂き、利用者様の状況報告や行事報告を行い、ご意見をいただき参考させていただき、サービスの向上に努めている。	面会や外出の頻度、事業所内での行事の取り組みについて意見をもらい、コロナも5類に移行したこともあり、町内のお祭りの太鼓台を目の前で見学できるように配慮してもらっている。会議で出された意見は、職員にも伝えケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて事業所の実情の報告を行い、それに対して意見等を頂き、運営に反映している。また、市の担当の方へ生活保護の方等の連絡を行い、いつでも相談等ができる様な関係を築いている。	生活保護の方の成年後見制度を利用する予定で、相談している。市からはメールで、県内をはじめとした助成制度などについて、最新情報を受け取っている。市の担当部署とは、随時必要な情報をもらえるような関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回(6月9月12月3月)事業所内で身体拘束をしない取り組みについて職員で普段の対応を振り返り、話し合っている。日中は玄関の施錠は行っておらず、利用者様の動きを把握し対応している。	定期的に身体拘束について学ぶ機会を持ち話し合い、共有することで日々のケアで行動制限に繋がらないよう心がけている。声かけが、時として言葉の拘束にあたる可能性がある事を理解し、職員同士声かけを行ない意識して取り組んでいる。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回(6月9月12月3月)事業所内勉強会を行い特に心理的虐待に意識を持ち言葉の使い方について話し合いを重ねながら、職員同士日々気をつけて業務に取り組んでいる。	法人や市、ネットでの情報や資料をもとに、職員会議で虐待防止について学ぶ機会を持ち、日々のケアで虐待に繋がらないよう心がけている。管理者は、職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響することを理解し職員に声かけするよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会があれば参加し、資料を基に情報共有できるようにしている。現在入所されている利用者さまが成年後見制度の手続きをされる方がいるので学ぶ時間を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に十分説明し同意を得た上で契約を結んでいる。契約後も、定期的に連絡を行い、相談しやすい環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ごとに担当職員がおり、日常生活の支援や身の回りの整理等を行っている。面会時や家族から連絡があった際は、当日勤務している職員が声を掛け要望等を伺っている。また、日々の関わりの中で利用者様の気持を声にできるよう心掛けている。	家族からタブレットで動画を見せてもらいたい、携帯で写真を撮ってほしいとの要望があり、対応し喜んでもらっている。運営推進会議や市町村の相談窓口など、事業所以外の人に家族が意・苦情を表せる機会があることを説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	月1回、職員会議を開催し、職員の意見、要望を話し合える場を作っている。新人職員や、意見が出しにくい職員へは、事前に声をかけ、聞き取っている。提案があった場合は、施設の運営に反映させている。また、面談等を行い話を聞くように努めている。	人材の確保や業務内容と見直しについて意見があり、夕方の申し送り時に互いのフロアの状況確認や翌日の予定を話し合うことでスムーズな対応ができています。人事考課を活用し、職員が向上心を持って働ける環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り現場に出向き、また人事考課を取り入れ目標設定や面談を通し向上心を持てるようにし、現場環境の整備に努めている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会を定期的に行いケアの質の向上に努めている。外部研修や内部研修に参加し、ケアについてみんなで考える機会を設け共有できている。	管理者、運営者は、新人職員や異動職員が、分かりやすい資料や指導内容の作成と働きやすい環境づくりに取り組んでいる。職員の立場や経験、習熟度に応じて仕事を振り分け、ケアの技術面だけでなく利用者との関わり方について丁寧な指導をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し情報交換をしたり、他事業所と連携を取り、ケアへの取り組みについて意見交換を行い、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の生活の様子を把握し、こまめに声掛けを行い、不安な点がないか寄り添っている。またご家族へも連絡し、苑での様子を伝えたり、自宅での様子など聞き取り、要望などを聞きながら参考にしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、契約時に介護の経過、現在困っている事、不安に思っている事を聞き、ご家族の思いが反映出来る様努めている。又、ご家族との信頼関係が築ける様に、定期的に連絡をし話をする機会を作り相談できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、電話、面談時に利用者様のニーズを把握し、必要となるサービスを提供できるよう努めている。またご家族の要望も取り入れケアに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者様個別にできる事を見極めてお願いし、無理の無いようにお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、ご家族へ生活面・健康面での状況報告を送付し、情報を共有している。また必要時、電話にて相談をし意見をいただき関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については感染対策をしながら行っておりご家族等は定期的に面会されており、また電話や写真などを活用しながら関係を継続できるよう支援している。	花見や洋服を買いに出かけたり、雑誌を買いに本屋さんへ出かけるなど、これまでの関係が継続できるよう取り組んでいる。近所の方や友人との関係性が途切れないよう、芋煮会や夏祭りなどの地域行事や保育園の行事に参加させてもらい、交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活や関係性等に考慮し席の配置に気を付けている。お茶の時間やレクリエーション等を実施し声かけを行ないながら利用者様同士が良好な関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談できる事を伝えている。またご家族と会った際は、相談応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	本人様のこれまでの生活や思いを把握し、要望を伺っている。ご本人の心身状態により、意向を伺うことが困難な時は状況をご家族に説明し、ご家族に意向を伺ってご本人とすり合わせを行っている。	レクリエーションやお茶の時間など、日々の生活の中で思いを聞くようにしている。家族に会いたい家が心配などに傾聴し、理解し、共感するようにしている。受け取った思いや意向は申し送時や申し送りノートで共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や面会・電話等の際にご家族に利用者様の生活歴などを伺い把握している。必要時は各関係機関からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活スタイルを把握し、職員はそれに合わせ声掛けを行い、変化があった際は申し送りノートで共有しケアの質の向上につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定例会にて検討し、課題を把握している。また毎日の申し送り時に変化、考え方などを検討し、ケアの向上につなげている。長期目標・短期目標の見直しの際、変更になった利用者様についてはご家族の方とも内容を共有し、確認して頂いている。	その人の持っている力を活かしたり、維持できるよう日々の業務の中で、確認を行ない、会議で話し合い柔軟な見直しに繋げている。現場で実践的な対応ができるよう、職員間で情報を共有し、日々の記録や個々の気づきを活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、チェック表、申し送りノート等にて情報を共有している。毎日、実施モニタリング表にてチェックをし、気づきがあった時はその都度記入し、毎月の定例会に課題として提出し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様本人の状態変化やご家族の生活変化等に合わせてカンファレンスを行い提供しているサービス内容を見直し、目に見えないニーズにも着目している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流や、地域の行事など、可能な範囲で地域資源を活用し生活をサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診継続し施設で対応している。ご家族の同行が必要な時は事前に連絡し受診内容、身体の変化等について情報を共有している。	契約時に確認し、それぞれのかかりつけ医に受診できるようにしている。歯科や耳鼻科などの専門診療科目は、家族と相談し予約を取り職員が対応している。通院の仕方や受診結果のあり方について、本人・家族の納得を得られるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護があり状態報告している。変化があったり気になる事があればその都度相談し対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に情報提供し本人様の身体状況をはじめ、認知症の症状や、性格、習慣等伝えている。又、担当の相談員と情報交換を行ない、退院後の円滑な支援ができる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に対して契約時に詳しく説明しご理解いただいております。状況に応じてご家族に相談しながら進めています。施設で対応出来る事や、本人様への負担等も考え、かかりつけ医師とも相談している。	急変時は主治医に連絡し、受診などで連携している。重度化した場合は、家族と相談しながら今後について話し合い、職員で対応方針を共有できるようにしている。看取りは行っていないが、できる限り本人と家族が望む生活ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時対応の講習を受けており、緊急時の対応をしている。事故発生時のマニュアルや個人の緊急情報提供シートを職員が見える場所に置き緊急時に備えている。また定期的に緊急時の対応に関する勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1度の避難訓練の実施し、訓練内容はその都度変更し、緊急連絡網は目に付く所に掲示している。また自然災害時のマニュアルを職員が共有し、防災用品も、準備をしている。	避難訓練計画書を作成し、年2回消防署立ち合いの避難訓練を実施し、町内の方にも参加してもらい避難方法や介助方法について取り組んでいる。毎月避難訓練を行っており、職員が交代で参加できるようシフトを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際やプライバシーを考慮すべき状況の際には、必ず利用者様にひと声かけて確認、了承を得てから対応している。職員の声掛けに関して、指導が必要な場合は確認したうえで指導をしている。	言葉遣いや介助の対応について、職員会議等で周知し、時には個別に指導し、尊重やプライバシーの大切さを関して職員に伝えている。排泄や入浴は目を合わせ耳元でゆっくり話しかけ、話を聞けるようにし笑顔での対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションを図り、自己決定出来る様な声かけや会話をするよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の気持が優先にならず、本人様の状況をみながら希望や気持をくみ取りながら支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容が来苑し散髪を行っており、利用者様によって、家族が自宅で散髪や毛染めを行っている。お気に入りの服や使用していたものを自宅から持って来ていただき化粧水をつけたり、髪を整えたりとおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	毎日の食事の献立を立てる際利用者様と会話することで好みの物を入れたり季節の食材を取り入れたりしており、後片付の他、サンドイッチ作りやお稲荷さんを作ったりと手伝って頂ける範囲で一緒に行っている。	職員がバランスを考え利用者の食べたいものを聞き取り希望を入れながら、メニューを作成している。利用者ひとりひとりの状態に配慮し、時間をずらしたりと、ゆっくり食べられるようにしている。職員も利用者と同じメニューを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記録している。食事量・刻み・トロミ等本人様の状態に合わせて提供している。水分をあまり摂取されない方にはゼリーにしたり好きな飲み物を選んで頂いたりしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自分で出来る方には行って頂き、困難な方には声掛けや、介助をしながら一部お手伝いを行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を取りながら本人様の排尿間隔をつかみ、さりげない声かけ誘導や、本人様の動きを見ながら介助している。	目標はトイレでの排出としている。生活する上で大切なことであり利用者一人ひとりの状況にあった援助をしている。在宅時リハビリパンツの方が、排泄パターンや尿量を確認・記録し、職員の適切な誘導の結果、パンツに切り替えることができた例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維等の野菜を使用した食事の提供できるよう心掛けている。水分チェックを行い適度な運動を取り入れ、なるべく自然な排泄につながるよう取り組んでいる。必要に応じてかかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後となっているが、本人様に声掛けを行い確認しながら入浴して頂いている。その際、個別に対応し好みの温度や湯加減を聞いたり入浴剤を使用したりし、身体の衛生を保ちまた、心が気持ちよくなる様に努めている。	声をかけた際に入りたくない方には、時間をおいて声かけし、どうしても入りたくない場合は日を改め入浴してもらっている。脱衣所と浴室は、冷風機や暖房器具を使い温度差が出ないようにしている。羞恥心に配慮し大判のバスタオルを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は昼食後に昼寝ができる時間がある。また体調や本人様の状況に応じて、気持ちよく休めるように温度調整等行いながらいつでもお部屋で休むことも出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がチェックシートで記録管理させて頂き間違いのない様に2重確認し確実に服用して頂いている。下剤は本人様の状態に応じて調節している。薬の変更時は特に注意し申し送りノート、受診記録等で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のこれまでの生活歴を把握し、掃除や食事準備のお手伝いをさせていただいたり興味を持ってそうなレクリエーションや作業を提案し申し送り等で共有をしながら楽しみにつながるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の状況を確認しながら、近隣の散歩や、庭先でのレクリエーションを行い、外の空気や日光を取り入れ、利用者様の気持ちの安定につなげている。	利用者の状態に合わせて体調を確認し、近所のドラッグストア、本屋等に出かけている。行事で出かけるときは、行き先のトイレ場所や動線を事前に確認し、緊急時も含めた荷物の準備を行っている。花見やもみじ見学など、季節ごとに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族から現金を預かり金庫に保管している。欲しい物や必要な物があればご家族と相談しながら購入し、月に一度は預かり金明細書を送っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればいつでも連絡ができる事を利用者様に伝えており、要望があったり荷物が届いた際などはその都度連絡を取り対応している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じられ落ち着く空間作りをしている。月ごとに利用者様に作品の色を塗って頂いたり、装飾品と一緒に作り壁に飾ったりとし、適切な温度・湿度を心がけ居心地良く過ごしていただけるよう取り組んでいる。</p>	<p>居室や共有スペースなど、利用者ひとり一人が自分に好きな場所ですごしてもらっている。歩行や移動のための動線を確保するため、必要以上のものを置かないようにしている。湿度や温度管理、手洗い・消毒の感染対策を行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間と台所に椅子が置いてあり、又居室も個室となっており、その時の気分で利用者様には好きな場所で見守りながら過ごして頂いている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただいたり、家族等の写真を飾ったり、安心できる環境をつくっている。また自分で作成した作品なども飾り居心地よく生活が出来るよう配慮している。避難時には専用プレートがあり避難が確認できるように居室扉に配置している。</p>	<p>身体状況に合わせてベッドの向きを変える等、その方の動きやすい住環境を整えている。自分の居室を間違わないよう、扉に目印をつけたり名札を付けている。利用者と職員と一緒に、季節に応じた衣替えや居室の清掃等を行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや廊下には必要な部分に手すりを設置し、安全な環境に努めている。また、トイレが分かるように案内を表示している。</p>		